

血液がんにおける異常血液型迅速診断法の確立：血液型A・B抗原とI抗原の連動性証明

著者	佐藤 英洋
著者別表示	Sato Hidehiro
雑誌名	平成25(2013)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究成果報告書
巻	2013-04-01 2014-03-31
ページ	1p.
発行年	2019-07-29
URL	http://doi.org/10.24517/00060685



[◀ Back to previous page](#)

血液がんにおける異常血液型迅速診断法の確立：血液型A・B抗原とI抗原の連動性証明

Research Project

Project/Area Number	25931024
Research Category	Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists
Allocation Type	Single-year Grants
Research Field	臨床医学
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	佐藤 英洋 金沢大学, 附属病院, 衛生検査技師
Project Period (FY)	2013-04-01 – 2014-03-31
Project Status	Completed (Fiscal Year 2013)
Budget Amount *help	¥600,000 (Direct Cost: ¥600,000) Fiscal Year 2013: ¥600,000 (Direct Cost: ¥600,000)
Keywords	I抗原 / 血液疾患 / 抗原減弱

All

Research Abstract

これまでフローサイトメトリー(FCM)法で血液がん患者のI抗原発現量を測定し、I抗原発現量がA・B抗原と連動して低下することを見出した。今回、血液疾患患者と亜型を含む非血液疾患患者および正常AB型と比較し、I抗原の発現量や蛍光強度の違いを統計的に解析した。対象はA・B抗原減弱を伴う血液疾患群5例、非血液疾患群10例と正常AB型11例。方法はFCM法を用い、I抗原の発現率と蛍光強度(GMFI)を測定した。統計はMann-Whitney検定を用いた。I抗原の発現率は血液疾患群と非血液疾患群、血液疾患群と正常AB型との間に有意な差を認めた($p < 0.01$)。しかし、GMFIでは3群間に有意な差は認めなかった。また、全ての血液疾患でI抗原発現のヒストグラムパターンは2峰性を示した。以上より、3群間の比較によりI抗原の発現率の低下現象は血液疾患群に特有な現象であることが示唆された。GMFIは3群間に有意な差はなかった。また、血液疾患群の発現率陽性分布域では正常AB型と変わらない抗原量を維持し、ヒストグラムパターンは2峰性を示したことから抗原発現を維持しているものと考えられた。

Report (1 results)

2013 Annual Research Report

Research Products (4 results)

All 2013

All Journal Article Presentation

[Journal Article] 赤血球A・B抗原減弱血液疾患におけるI抗原発現低下：フローサイトメトリー法による血液型鑑別の可能性	2013 ▼
[Journal Article] IgM anti-recipient ABO antibodies predict acute graft-versus-host disease following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	2013 ▼
[Presentation] 血液疾患患者の異常血液型における迅速診断法の確立-I抗原検査の有用性-	2013 ▼
[Presentation] A・B抗原減弱を伴う血液疾患とI抗原減弱の関連性	2013 ▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-25931024/>

Published: 2013-05-15 Modified: 2019-07-29